

## 全校集会 校長講話（5月18日）

テーマ：最高の「ハハハ」で終わるために

おはようございます。いよいよ明日からの修学旅行をかわきり、各学年での大きな行事が始まります。しかし、非常に残念ですが、本番を前に学年集会などで学校生活での指導があったと報告を受けています。なぜ、先生たちが皆さんに真剣にそして厳しく話をされたのか。

それは、皆さんに「心の底から笑って、元気に帰ってきて欲しい」と心から願っているからです。

今日、皆さんに私の好きな歌の歌詞を贈ります。

「とにかく笑えれば それでも笑えれば  
今日一日の終わりに ハハハと笑えれば」

20年以上も前の歌なのですが、ウルフルズの『笑えれば』という曲です。

私は、皆さんが一日の終わりに、仲間と「ああ、楽しかったな」とハハハと笑い合える、そんな行事にしてほしいと願ってきました。ですが、考えてみてください。ルールを破り、誰かを傷つけ、周りからの信頼を失った状態で、一日の終わりに心から「ハハハ」と笑えるでしょうか？

そんな「笑い」は、本当の成功ではありません。

そして、この「笑い」には、絶対に欠かしてはならない「土台」があります。

それは、「皆さんの安全が守られている」ということです。私は、「安全を担保できない活動は、実施すべきではない」と考えています。

例えば、気象情報などによって、現地の安全が確保できないと判断した場合はもちろんですが、皆さんの行動の中に危険があり、お互いの信頼関係が崩れてしまったと判断した場合。先生たちは、たとえ直前であっても、あるいは活動の途中であっても、即座に「中止」や「変更」の決断をくだします。

それは、皆さんに「楽しい思い出」を作ってほしいと願う以上に、皆さんの「いのち」を無事に守り抜くことが、最も大切な仕事だからです。皆さんが元気に、笑顔で家に帰り着くこと。それができない活動に、教育としての価値はありません。

以前の全校集会で、行事は「自立の舞台」だと言いました。「自立」とは、自由勝手に振る舞うことではありません。自分の行動に責任を持ち、周りから信頼される存在になることです。

この行事を、本当の意味で「最後に笑える」ものにするのか、それとも後悔で終わらせるのか。それは、今日これからの皆さんの行動にかかっています。

厳しいことを言いましたが、私は皆さんの力を信じています。道徳の振り返りで、皆さんは素晴らしい「相手を思いやる言葉」を綴ってくれました。あの時の気持ちを忘れず、「想像力」を働かせて行動すれば、必ず最高の舞台を創り上げられるはずです。

私は、皆さんが「安全」という土台を自分たちの手でしっかりと支え、一日の終わりに最高の「ハハハ」という笑顔で帰ってきてくれることを、心から信じています。

以上で、先生の話が終わります。